



2022年4月入職
看護師 Iさん

「入職後3カ月経過しての自身の思い」

学生時代、コロナ禍だったので精神科での臨床実習を経験できませんでした。ビデオ等の教材を通しての学内実習しかなく、精神科の患者さんと直接交流を持つ機会が全く持てず、どのような患者さんが入院しているのか全くイメージがつかないまま、入職となりました。学内実習で得た精神科のイメージはとてどもんよりした病棟で患者さんの表情も暗いものでした。そのため不安感がとても大きいままの入職でした。しかし、入職をしてからはスタッフにはもちろんのこと、「最初は誰でも不安なものだし、失敗は誰にでもあるから、大丈夫よ。」と逆に患者さんに親切にされる場面が沢山あり、精神科の患者さんの暖かさに触れ、不安感は消えました。入職前の精神科のイメージは良いものではなかったですが、今では患者さん一人一人、一生懸命毎日活動しており、穏やかなイメージへ変わっています。時には、穏やかな日常ばかりではなく、患者さんの状態が悪くなることもあったりしますが、その都度、先輩方のサポートを受け、カンファレンスを開きスタッフ全体で悩み解決し、自分自身の悩みを自分だけ溜め込むまらずに済んでいます。そのたびに自分自身を見直す機会があり、精神看護を少しずつ学習できています。

入職して3カ月経過した私が今大切にしている事は患者さんが笑顔になる場面を増やすことです。真面目な会話もとても大切ですが、時には気の抜けたクスッと笑える会話も必要であると感じています。私は患者さんとコミュニケーションを取る事が大好きです。患者さんと笑う場面を共有し、入院生活の中で楽しめる事をみつけ、信頼関係を築いていく精神科看護を楽しんで仕事をしています。



2022年4月入職
看護師 Tさん

「3ヶ月を経過して」

3ヶ月を振り返り、看護技術を含め人との関わりについて学べた。精神科に入職するとなった時、看護技術についての習得が特に不安であった。しかし実際では、採血や吸引、導尿など様々な技術を学び実施することができた。実施の回数を重ねていくことにより徐々に自信がついていきポイントも意識して行えるようになってきている。人との関わりについては、少しの自分自身の言葉行動が患者さんにとって影響を与えているなど実感した。目線や位置関係、言葉遣いなど指摘されてからこそわかることや、ひとつの行動によって動かされた患者さんを目の当たりにし、自分自身の言動を振り返ることで何が悪かったのかよかったのかたくさんわかることがあった。

私は日々、患者さんとの信頼関係を築いていくためにすれ違う時など、一声挨拶や調子を伺ったりしている。最初の方は「若いお姉ちゃん」「新しい人」など呼ばれていたが、それらの行動もあったからか3ヶ月経ち「看護師さん」や名前と呼ばれたり嬉しく感じた。他にも所属が療養病棟であり慢性期に至る患者さんも多くいるなか、少しの変化やサインに気付くことが大切だと感じている。そのため、患者さんの声のトーンや表情、1日の過ごし方など気を配っている。それらにより、調子の良し悪しなど少しずつ変化がわかるようになってきた。3ヶ月を経過してもまだまだわからないこともあるが、患者さんの少しの変化に目を向け日々の学びを振り返り生かしていきたいと思う。



2022年4月入職
看護師 Hさん

「3か月を振り返って」

この春入職して7月で3か月が経ちました。初めのころは戸惑うことも多く、緊張や不安が大きかったのですが、先輩方に優しくひとつひとつ丁寧に指導していただきながら採血や筋肉注射、おむつ交換などの基本的な看護技術はもちろん、患者さんの特性や関わり方のコツから記録などの事務方作業まで様々なことを経験させてもらい、一人でできることも増えてきましたが、まだできていないことも多く自分から先輩に声をかけて経験を積んでいく必要性も感じています。

学生時代の実習では、新型コロナウイルスの影響もあり各領域1週間にも満たない期間でしたが、精神科の実習が一番印象に残っていますし、何より一番楽しみながら取り組めた領域だったと思います。

私の課題は、自分でその日一日の段取りを組んで優先順位を先輩と相談しながら立てて行動することができていないことと、時間管理ができていないことです。課題を克服するために、自分から先輩に発信し、相談しながら業務を進めていくことが必要であると思います。

今は、日々の業務を覚えてこなしていくことに手いっぱいになってしまい、先輩方のように患者さんと余裕をもってかかわることはできていませんし、知識面でも不足していると感じる部分も多いですが、教えて下さる先輩方に感謝しながら受容・共感・傾聴を常に心がけ、患者さんの心に寄り添えるような看護ができるように成長していきたいと思いません。

2022年4月入職

看護師 Mさん

「入職してこれまでの振り返り」

看護師として病棟勤務する中で、最初は緊張して日々の業務を覚えることで精一杯でした。しかしまわりの先輩方がサポートしてくださり疑問に思ったことや、不安なこともすぐに相談できる環境で勤務することが出来ています。

入院してこられる患者さんは精神疾患だけではなく身体合併症の方も多いため、幅広い病態の理解や看護技術の習得が必要であり多くのことを学ぶことができます。

同じ病名の患者さんでも、一人一人違う病態であるためその方の全体像を考えながら接することの大切さを感じています。毎日があっという間に過ぎますが、亜昏迷状態だった患者さんが回復した際に私の声かけを覚えてくださり「ありがとう」の言葉をかけてもらえたことや、入院時にとっても辛い表情をされていた患者さんが、笑顔で退院されていく姿が見られたときは本当に嬉しいです。また、私も微力ながら病棟のチームの一員として看護に参加出来ていることを実感します。

自分を支えてくれる同期やご指導くださる先輩方に感謝し、これからも患者さんに寄り添った看護ができるように勉強し成長していきたいです。